関東甲信越土を考える会 研修会を開催しました

2024年8月1日

7月25日（木）、「関東甲信越土を考える会」は、茨城県で夏期研修会を開催しました。今回は、2月の総会で長期にわたる活動方針として決まった「土づくりを見直す」の第一弾です。

挨拶する渡邊会長

午前中は、阿見町の坂本農園にて『**少量多品目の野菜農家から堆肥の活用術を学ぼう！**』と題し、坂本様とつくば牡丹園 園長の関浩一氏からお話を伺いました。少量多種目であるために、作付け量や、資材投入の費用対効果などご苦労があり、品目を絞って収量の増加や連作障害回避等を目的に、関氏が開発当初から深く関わってきた馬糞発酵堆肥を使用されているとのことでした。坂本様も活用されているチップと馬糞を、酵素により短期間で分解し、匂いの無い馬糞発酵堆肥を製造している「堆肥ハウス」が近くにあるとのことで急遽視察を追加し、皆さん真剣に関氏に質疑をしていました。

午後は、土浦のリバーサイドホテルえびすやに場所を移し、会員と一般参加の生産者、ご講演いただく方々、事務局スタッフを合わせて44名が集まりました。はじめに会長が、「有機物を使った土づくりを改めて皆で学び士気を高め、それぞれの営農に生かして欲しい」とコメント。次に事務局代表としてスガノ農機㈱ 渡邊社長より挨拶をいただき、午後の研修会がスタートしました。

一つ目の講演は、『**耕すこととは？**』と題し、茨城大学農学部地域総合農学科 教授 小松崎将一氏に、近年注目されているカバークロップの効果、耕起方法の違い（不耕起、ロータリ耕、プラウ耕）による残渣の残存率や、緑肥の耕うん方法での品目別の収量の違いなど、海外の実例を交えながら、幅広い視点での講演をいただきました。その後、片岡副会長の司会で行われた質疑応答では、具体的な質問が飛び交い、土づくりへの真剣さが伝わってきました。

休憩をはさみ、関浩一氏から『**土壌の生物性と堆肥について**』というテーマで、土壌微生物の種類と働き、バランスの重要性についてお話しいただき、サラブレッド堆肥の実証ほ場を例に、品目によっては収量の大幅な増加や食味の向上効果、さつまいもの基腐れ病、モザイク病等の病害虫にも効くとのことでした。作物自体を強く健康にするために土づくりの重要性をお話しいただきました。

最後に、バイエルクロップサイエンスの方から、『乾田直播に有用な商材について』ほ場ごとの異なる病害虫に合わせた、種子コーティングについてや、栽培管理をトータルでサポートしているなど、たくさんの情報提供をいただきました。

坂本農園ほ場

小松崎将一氏

関浩一氏

情報交換会

情報交換会では、宇津木さんの乾杯の音頭で始まり、講演会では質問しきれなかった事を食事もそこそこに、メモを片手に両先生を囲み、更に詳しい話を聞いている方もいらっしゃいました。また、それぞれの状況報告や今後の取り組みなど、熱い話で盛り上がりました。その後、土浦で2次会も開かれ、さらなる情報交換が繰り広げられました。

関東甲信越土を考える会 事務局：スガノ農機株式会社 関東甲信越支店　茨城県稲敷郡美浦村間野天神台300　TEL. 029-886-0033　FAX. 029-886-0030